

平成24年度
びんリユースシステム構築に向けた実証事業
概要・進捗状況の報告

平成24年度 びんリユースシステム構築に向けた実証事業

- 平成23年度に引き続き、検討会で得られた知見を活用しつつ、実証事業を行う。
- 東北地方の復興を進めるため、廃棄物最終処分量を抑制するとともに、最先端の循環ビジネス拠点としての復興を目指すという観点から平成24年7月から3件地域で実施。
- また、平成24年7月30日(月)から8月23日(木)まで募集したところ、全国から2件の応募があり、実効性、先進性、発展性・波及性、独自性、関係者との連携といった観点により検討した結果、1件を選定。平成24年10月から実施。

	申請代表者・実施地域	事業概要
1	宮城県びんリユース推進協議会 (宮城県内全域)	宮城県におけるびんリユース構築の実証 <ul style="list-style-type: none"> ・静脈物流に再利用専用の箱を用いる「R300mlびんリユースシステム(宮城方式)」の方式を、720mlびんへの応用・適用可能性を実証。 ・消費者意識調査を実施し、消費者サイドに立ったメリット・デメリット等をデータ化する。一般消費者向け、清酒愛飲家向けの2種類のアンケートを実施。
2	秋田びんリユース協議会 (秋田県内(秋田、由利本荘地域を中心に))	秋田県におけるびんリユース構築の実証 <ul style="list-style-type: none"> ・秋田市の協力を得て、秋田市内を対象とした日本酒の流通状況の調査。 ・東北復興支援リユースキャンペーンとして、酒造メーカーの協力を得て、720ml製品を対象にネックリンガーを付けて販売、小売店にて店頭回収、問屋を経由し、酒造メーカーに戻し、洗浄・検査の上、再使用。
3	福島県容器リユース推進協議会 (福島県内全域)	福島県におけるびんリユース構築の実証 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に郡山市にて実施した取組みを継続し、拡大・深度化を図る。 ・福島県と連携し、福島県・県内59市町村がメンバーとなる協議会を発足させる。市町村との協力体制を強め、各地域でのびんリユースの促進を図る。 ・東北復興支援R720mlびん回収促進事業を継続、市町村のびんリユースの取組状況の実態調査を行う。
4	World Seed(ワールド シード) (奈良県)	奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業 <ul style="list-style-type: none"> ・リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』を開発、奈良県特産の大和茶を使用した飲料にて地域循環型のリユースシステムの構築を図る。 ・公共施設、ホテル・飲食店等を中心に普及させることで、広く市民にリユース概念を発信する。高い回収率を維持できるリユースシステムを構築。

宮城県おけるびんリユース構築の実証

- 宮城県全域を対象に、びんリユース推進のための協議会を設置。
- 宮城県においては、静脈物流に専用箱を利用する「宮城方式」、市町村が行政回収したびんから活きびんを選別・回収しリユースする「仙台方式」が確立されており、これらの取り組みをもとに拡大を図る。
- 東北地区全域に取り組みを拡大するため、地域間の連携、推進体制の構築を図る。

事業名称	宮城県おけるびんリユース構築の実証
申請代表者	宮城県びんリユース推進協議会
実施地域	宮城県内全域
対象びん	酒中小容量びん (R720mlを中心に、その他720ml(再使用可能なもの)、R300mlなど)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・静脈物流に再利用専用の箱を用いる「R300mlびんリユースシステム(宮城方式)」の方式を、720mlびんへの応用・適用可能性を実証。 ・消費者意識調査を実施し、消費者サイドに立ったメリット・デメリット等をデータ化する。一般消費者向け、清酒愛飲家向けの2種類のアンケートを実施。
回収本数 (想定)	30万本(最終目標) 宮城県内のR720びんの使用量は推定60万本、最終目標は30万本回収・リユース。
本年度の 具体的取組 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県びんリユース推進協議会の設立 ・「R300mlびんリユースシステム(宮城方式)」の720mlびんへ応用するための実証 ・消費者意識調査による消費者サイドに立ったメリット・デメリット等のデータ化 (インターネットによる一般消費者向け、清酒愛飲家向けアンケート) ・被災地域でのびんリユース促進のための支援、被災メーカーへのリユースびん使用促進 ・「東北地区びんリユース推進協議会」「各県単位びんリユース推進協議会」の設立・運営のプロセスをモデル化、地域連携促進 / など

- 消費者調査として、清酒愛飲家向けとして宮城県酒造組合主催「穰(みのり)の宴」(約500名参加)への参加者への調査、一般消費者としてインターネットアンケート(東北6県、新潟県在住)を実施。
- 宮城方式への720mlびんへの応用について、回収専用に供する箱を用いて回収実験。回収本数、品質などを踏まえて、拡大に向けた検討を実施。

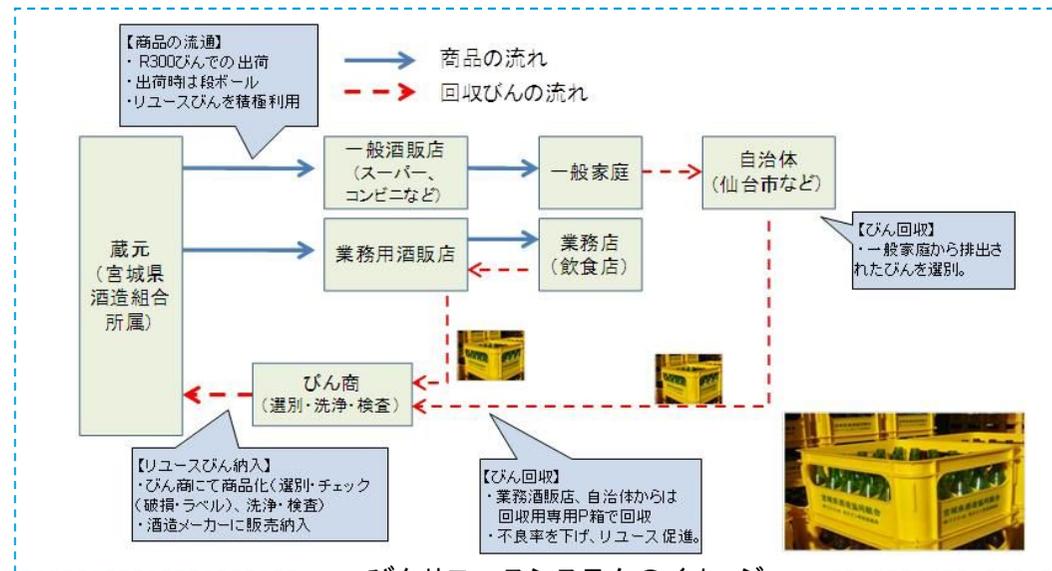
協議会メンバー

座長:東北大学大学院 准教授 馬奈木 俊介
 事務局:東北びん商連合会宮城県支部長 大日方輝育
 メンバー:宮城県酒造組合
 東北大学馬奈木研究室
 東北びん商連合会宮城県支部
 関連消費者団体・自治体
 関連卸売業団体・小売店団体

現時点での予定。

スケジュール(予定)

7~10月:720mlびん宮城方式での実証開始
 その他、各種調整・準備
 11月2日:清酒愛飲家向けアンケート
 (宮城県酒造組合主催「穰(みのり)の宴」にて)
 12月~:一般消費者向けアンケート
 意識調査等を実施
 2月:成果とりまとめ
 720mlびん宮城方式の実証は継続して実施



びんリユースシステムのイメージ

秋田県におけるびんリユース構築の実証

- 秋田県におけるびんリユースシステムの構築に向け協議会を設立。
- 秋田県立大学の協力を得て、びんリユースシステム構築に向けた実態調査を実施、日本酒の流通状況を把握し、得られたデータをもとに今後の方向性を検討する。
- 東北復興支援リユースキャンペーンとして、酒造メーカーの協力を得て、小売店での店頭回収を実施。ちらし、ネックリンガー等を用いてびんリユースに向けた普及啓発を実施する。

事業名称	秋田県におけるびんリユース構築の実証
申請代表者	秋田びんリユース協議会
実施地域	秋田県内(秋田、由利本荘地域を中心に)
対象びん	720mlびんを中心
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田市の協力を得て、秋田市内を対象とした日本酒の流通状況の調査。 ・東北復興支援リユースキャンペーンとして、酒造メーカーの協力を得て、720ml製品を対象にネックリンガーを付けて販売、小売店にて店頭回収、問屋を経由し、酒造メーカーに戻し、洗浄・検査の上、再使用。
回収本数 (想定)	未定 出荷本数を含めて調整中
本年度の 具体的取組 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・「秋田びんリユース協議会」の設立、推進体制の構築 ・秋田市内における日本酒の製品・空きびんの流通状況の調査 ・東北復興支援リユースキャンペーン(酒造メーカーの協力を得て、店頭回収実験) ・ちらし、ネックリンガー等を用いたびんリユースに向けた普及啓発の実施 ・今後のびんリユース推進に向けた方策の検討 / など

- 今後のびんリユースシステム構築に向けた基礎調査として、秋田市で行政回収されたびんの組成調査、どの容量、どのメーカーのびんが流通しているかを把握する。
- 東北復興支援リユースキャンペーンとして、小売店店頭での回収実験を行い回収状況等を把握する。

協議会メンバー

座長：秋田県立大学 准教授 嶋崎真仁
 事務局：東北びん商連合会秋田県支部長 辻貴雄
 メンバー：
 【蔵元・酒造関係】
 秋田県酒造組合、天寿酒造(株)
 【流通】
 秋田県酒類卸
 【大学】
 秋田県立大学
 【行政】
 秋田市、由利本荘市
 【関係団体】
 びんリユース推進全国協議会

スケジュール(予定)

7～9月：協議会発足に向けた各種調整、
 実態調査、事業内容検討
 10月：第1回協議会開催
 11月20日：秋田市リサイクルプラザ びん実態調査
 27日：同
 12月：ネックリンガー、のぼり、ポスターなどの作成
 1～2月：東北復興支援リユースキャンペーンの実施
 2月：第2回協議会開催、成果とりまとめ



ネックリンガー(イメージ)



のぼり(イメージ)

福島県におけるびんリユース構築の実証

- 福島県・市町村との連携により福島県容器リユース推進協議会を発足、県全域での推進を図る。
- 市町村におけるびんリユースに関する取り組みを調査、ごみカレンダーへのリユースびん掲載、活きびん回収などをはたらきかける。
- 東北復興支援R720mlびん回収促進事業を継続、ちらし、ネックリンガー等を活用し、普及啓発とともに更なる回収促進を図る。

事業名称	福島県におけるびんリユース構築の実証
申請代表者	福島県容器リユース推進協議会
実施地域	福島県内全域
対象びん	720mlRマークびん
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に郡山市にて実施した取組みを継続し、拡大・深度化を図る。 ・福島県と連携し、福島県・県内59市町村がメンバーとなる協議会を発足させる。市町村との協力体制を強め、各地域でのびんリユースの促進を図る。 ・東北復興支援R720mlびん回収促進事業を継続、市町村のびんリユースの取組状況の実態調査を行う。
回収本数 (想定)	約83,000本 昨年度の実績と同等の場合。
本年度の 具体的取組 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・酒造組合、酒販卸・小売、消費者団体などに加え、福島県・県下59市町村がメンバーとなる協議会の発足 ・市町村のびんリユース推進に向けた取組状況の実態調査、協力依頼 ・東北復興支援R720mlびん回収促進事業を継続。ちらし、ネックリンガーなど活用（平成23年度事業の拡大・深度化。1本1円の寄付を継続実施。） / など

- 協議会には、福島県、県内市町村のほか、蔵元、流通、消費者関連団体など、多様な主体が参画。推進体制の構築・強化を図る。
- 運営委員会にて事業推進方針を検討、平成25年2月に設立総会を開催予定。

協議会メンバー(推進体制)

座長:福島大学経済経営学類 准教授 沼田大輔
副座長:東北びん商連合会 会長 伊藤明人
事務局長:びんリユース推進全国協議会 小沢一郎

【行政】

福島県、福島県内59市町村

【蔵元・酒造関係】

福島県酒造協同組合、福島県清酒流通協同組合

【卸売・小売】

福島県酒類卸協議会、福島県小売酒販組合連合会

【びん商・P箱など】

東北びん商連合会、福島県再生資源商工組合
福島県再生資源協同組合連合会、
日本P箱レンタル協議会、三甲(株)

【消費者関連】

福島県消費者団体連絡協議会、
福島県生活協同組合連合会

【事務局】

福島容器(株) (以上、順不同・敬称略)

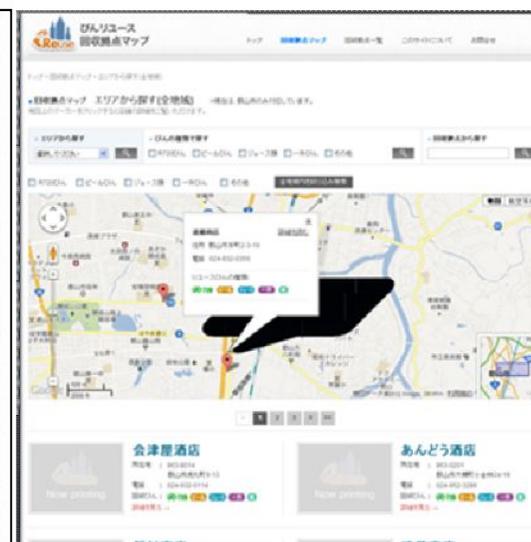
現時点でのメンバー

スケジュール(予定)

- 7～10月:福島県をはじめ各関係者との調整、事務局内での検討会議
 - 11月:第1回運営委員会
 - 12～1月:市町村実態調査
 - 2月:協議会設立総会及び全体会議
 - 2月:第2回運営委員会、成果とりまとめ
- 東北復興支援R720mlびん回収促進事業は継続実施



ちらし(イメージ)



びんリユース回収拠点マップ
(<http://www.bin-reuse-map.jp/>)

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業

- リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』を開発、奈良県特産の大和茶を使用した飲料にて地域循環型のリユースシステムの構築を図る。
- びんはRドロップス2号を用い、デザインは容器グラフィックデザインコンペティションを開催して選定。
- 公共施設、ホテル・飲食店等を中心に普及させることで、広く市民にリユース概念を発信する。これらの需要先はクローズドシステムであり、高い回収率が期待される。

事業名称	奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業
申請代表者	World Seed(ワールド シード)
実施地域	奈良県
対象びん	Rドロップス2号(大和茶『と、わ(To WA)』)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』を開発、奈良県特産の大和茶を使用した飲料にて地域循環型のリユースシステムの構築を図る。 ・公共施設、ホテル・飲食店等を中心に普及させることで、広く市民にリユース概念を発信する。高い回収率を維持できるリユースシステムを構築。
回収本数 (想定)	年間約80,000本 年間の総普及本数約100,000本、回収率80%と想定
本年度の 具体的取組 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・リユースびん入り大和茶「と、わ(To WA)」の商品化 ・公共施設、ホテル・飲食店等での利用の働きかけ ・地方自治体等へのアンケート調査・ヒアリング調査等より検証 ・「奈良県びんリユース推進協議会(仮称)」の立ち上げ ・他地域での地域循環型リユースシステム構築に向け、成果・課題の整理 / など

- リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』の販売価格はオープン(卸値90円【税別】)、びん容器保証金10円/本、P箱保証金200円/箱。
- 販売・需要先は高い回収率が期待できる公共施設、ホテル・飲食店など。商品納入の際に空きびんを回収。地方自治体が開催する会議等で率先的に利用することで、広く市民に対する普及啓発を図る。

推進体制

主な主体の役割は以下の通り。
 【企画・コーディネート】
 World Seed
 【製造者】
 能勢酒造(株) 製造、びん洗浄・検査は自社
 【流通】
 (株)桶谷 製品の流通、空きびん回収
 【需要先】
 公共施設(生駒市、奈良県など)、ホテル、飲食店等

スケジュール(予定)

10~11月:関係者との調整、商品開発(中身、デザイン等)
 11月21日:リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』
 販売開始
 12~2月:販路拡大、リユース概念の普及啓発、
 協議会の立ち上げ、回収状況の把握
 アンケート・ヒアリング調査/など
 2月:成果のとりまとめ空きびん回収

